

吟味役所

岐
名
勝
圖

蘓
路





園湖遊話

八ツ子
の
遊



の
遊

富士山

志和しと峰の
坂中程より見
る富士





床山

寺川



寢覺本園

大覺山塔川寺

本山 孫之右衛門 寢覺

どろろ ちんちん

屏風 二重

柳子 ちんちん

弁天社 水



磨針石

竹葉

九

山谷



山崎

八景

長江



比良

比良

比良

淡海



東山道西帰之記序

高古^{キコ}之^ノ武城^{ブキ}より西
み帰^{ミカエ}りんとせしむるの身^ミの又^{マタ}東^{トウ}よ
遊^ユりんと定めあけまはしむるのそに
おしむる越^{コシ}ゆる者の轅^{ウラ}と北^{キタ}より
正^{マサ}徳^{トク}のまの日光^{ニクカウ}のまの
甲^{カウ}をたれおされとも 神^{カミ}社^ヤと
伏^{フス}拝^ヒのまの神^{カミ}感^{カン}乃^ノまはる

と此津ありはと津一宮集のころんが
よふふみぐさしそちきいたるこれ
ふのこ地ひらうやうれ地こ筆よの
其ころんよふまはさん事
もかへけいこもこぬ室乃八寫
に立より是利の字換よゆうて依
照えのこすれ妙書よふのちりう
いしん原をさえくろりの内よ浅間が

嶽をらむと地と路はこいよ破地路
よこるに換換とゆるこく鷹斜とゆら
を地して是濃路よりり越路をえ
ましくゆよも海にいふ破乃園より右
み精しち北よゆさ伊吹よのぬ餘
湖の海よちりけ柳のぬ刀祿よと
て越前乃敷敷よいより金が橋よ
ゆく字は乃海をちりめ字は乃宮

を伏せし本乃目山は花より見あ
らふ城こそ近江の貝津に浦も出
洲水のまはれどわど川ゆりた乃
毒比島に渡野田の浦を船の入り
坂本大津をくく系舟入ぬこそえぬ
間々人住てよ乃と國もさりしに
うらうはのしき名猪の地とまめあ
くりあくまなくんはるすりと松し河

おのふりまゝにぬとらよ召入民の屋
どららおすうふ勢つてこれらあはれも
ひら遠くあられゆきどおまんの白
浪の立ありのぬきねそれらなく目
みんしきまゝにゆりしるま佳境と目
をゆりあつたにちがめゆく道すうま
乃末片もされと北土めらうさし山路
ちよこの気候かそくそと雄孝あしと

山崎

山崎

白のたゞうのいんうのうくせんあ後し
 いあつた人一日の猪イノあをて一日乃
 神仙シヤンかたふさうははるる井らうれ
 かんカのげももは海れらうも日はく
 て佳境カウジヤウとさひあといまうれぬ生
 るて竟キヤウジヤウ寐の仁よあらしく山シヤンの遊
 をちよすうといふらうと東坡トウハぐらふ
 たりと大君の清めくといよりてを平

の世よ中終じあをゆる集りて先
 て一イのふ遊ユウ其一時乃ちあめのみ
 うは身とねるはくおこいさるあれ
 ありふはささしやういふまのあつら
 人ヒトはを地チとてあつた井イのあつら
 する終コノヘてかゝ終コノヘく終コノヘつコノヘまらよ
 一あゝ終コノヘバ目メいさあか村里サトのあり
 とはらのきくよまら川カハは海ウミの國クニ

DUMONT

1807

取^カの佳^{タイ}系^{タイ}たしく足^カはまき^カらうし
ま^カに陸^カし^カく道^カ行^カざり^カにあり^カく
書^カら^カて後^カ乃^カと^カい^カま^カよ^カさん^カあり^カ又^カ山^カ後^カ
約^カ之^カこ^カが^カ人の^カる^カま^カる^カふ^カも^カあり^カれ^カん^カの
と^カ長^カき^カ道^カと^カ程^カき^カ筆^カに^カま^カう^カせ^カま^カ
み^カ純^カく^カら^カぬ^カを^カ記^カす^カ平安^カ城^カの^カ書^カ林^カ
柳^カ枝^カ新^カ此^カ記^カ行^カを^カ梓^カよ^カま^カり^カ約^カり^カん^カと
ふ^カし^カま^カご^カり^カし^カ記^カハ^カ昔^カ彼^カ道^カと^カま^カり

一^カ何^カ珍^カむ^カ村^カ童^カの^カゆ^カく^カち^カく^カ家^カ輩^カは^カ同^カ
よ^カ抄^カふ^カあ^カれ^カい^カき^カう^カふ^カ事^カ者^カの^カ身^カも^カじ^カ
み^カあ^カう^カり^カい^カ位^カた^カく^カ中^カん^カと^カち^カ記^カ君^カ
乃^カん^カ後^カう^カん^カの^カゆ^カく^カけ^カな^カく^カ又^カ世^カの^カ人^カ
わ^カま^カの^カみ^カも^カ抄^カふ^カけ^カあ^カれ^カい^カま^カの
た^カう^カか^カり^カれ^カも^カあ^カあ^カま^カま^カあ^カの^カ
く^カそ^カく^カま^カあ^カり^カあり^カま^カあ^カ東^カの^カ道^カの^カ
か^カら^カく^カま^カわ^カる^カん^カ人^カの^カゆ^カく^カけ^カ記^カの

のちよりを河へあはせ給りしが
音基しめん

寶永六年孟春の日

益軒貝原篤信記

木曾路之記上 貝原篤信記

江戸 江戸 芝居部 板橋へ二里十町

板橋より葦二里

水乃戸田の溪あり比川水六袂

下を流す川上流へ流る角田川是なり

部名の名所 伴勢地後一ツを

見たり

藤より浦和へ一里半

浦和より大交へ一里十町

真宮より上尾へ二里

上尾より桶川へ一里近

桶川より鶴巣へ一里十町

桶川の町家敷百軒許あり

鶴巣より熊谷へ三里半 一里八町

鶴の巣氏家百三十軒許。町の町家

右此方より日光への路をひき過 阿波

を後守殿領内。箕田村北中より八幡

あり。是液色代。総が社也。総は祖文よ

り。箕田よりなつ。成。箕田乃源流と

号とのまの所が村入口右方。是なる及城

をくわたりあり

熊谷より源流へ二里十町

熊谷北町家百軒あり。熊谷次郎重実

御寺一取之。然谷^{らに}が^らる^る本^{ほん}備^びわ^り。是^{こゝ}が
秩父^{ちちぶ}へ二里半^{にりはん}を^を秩父^{ちちぶ}の^の武^ぶ苑^{えん}に^にた^た云^い
ふ。此^{こゝ}也^{なり}。江戸^{江戸}の^の板^{いた}去^さき^{より}あり^{あり}み^みゆ^ゆ。江
戸^{江戸}の^の坤^{くん}北^{きた}方^{かた}より^{より}南^{みなみ}秩父^{ちちぶ}の^の下^{した}島^{しま}の
と^と上^{うへ}島^{しま}の^の重^{しげ}忠^{ちゆう}宅^{たく}の^の徳^{とく}わ^りの^の跡^{あと}
乃^のこゝ^{こゝ}。江戸^{江戸}より^{より}島^{しま}の^の十^{じゅう}六^{ろく}里^りを^を然^{ぜん}
谷^{らに}より^{より}多^たへ^へ二里半^{にりはん}あり^{あり}。永^{なが}井^い
二里半^{にりはん}の^の山^{やま}あり^{あり}。是^{こゝ}を^を徳^{とく}が^が徳^{とく}一^{いつ}取^と

也。玉井村茶屋を

深谷より本庄へ二里半あり

深谷^{ふかや}家^け敷^{しき}三百^{さんひゃく}を^をり^り。此^{こゝ}より^{より}本^{ほん}庄^{じょう}村^{むら}
あり。是^{こゝ}に^に乃^の深^{ふか}谷^やの^の古^{ふる}跡^{あと}あり^{あり}。是^{こゝ}を^を然^{ぜん}
谷^{らに}の^の武^ぶ苑^{えん}宅^{たく}あり^{あり}。駿^{しゅん}河^が北^{きた}島^{しま}の^の
よ^よ六^{ろく}里^りを^を宅^{たく}あり^{あり}。此^{こゝ}に^に一^{いつ}座^ざ税^{ぜい}之^のを^を小^こ川^{がわ}
を^を見^み玉^{たま}取^とあり^{あり}

本庄より新町へ二里

新町

二里

本庄町家百をり。酒井宗女後好むと
新町より余加野へ一里半

新町より余加野二百里許。町の出口は橋を
越か酒井雅系は度々多し。宗鼻村は
か川。武蔵と申は城。天正年中
川を好監と。小糸氏政と合戦し。宗
へんか川の渡より。同前。越前守
也

余加野より高崎へ一里半 是が峠
上州也

余加野町屋二百四五十軒。町中より高
崎へ漢名みゆ。高崎分所よりあり。高
崎より道。高崎北東より。道は
早西より。佐井村あり。佐井舟橋は渡也
し。川は。名余之古寺多し。舟橋とつか
ぶ。本ありとて。高崎より。高崎と
云今あり。佐井源兵衛恒世が意宅と

佐野より定家の森之家北の村を
名取よいわづら

高崎より板鼻二里三十町

高崎北町家子朝より左の方圓郡
波野より後城あり。高崎北急より佐野の
あさま波野の嶽よりみゆる。高崎北より高
さきより急よりみゆる。高崎と号する
あり。高崎の坂より急と云村を。綱草

急く作ら。乃てたむこことくふ世に者

物。高崎乃急あり綱草多々わづ

板鼻より安中、三十町

板鼻乃町家百余家。此地、酒井雅直
及ゆかり中宿より肉友の嶽より後館あり
板鼻の南ふより急の急。一乃急と云
村を。急と云の急の急の急を云へ

安中より松井田、二里十町

安中北郡教区管内。因取の地も及ふ
なり二万石付。碓日川と栲あり。たよ
妙義のあり。妙義山へり。また
地系一室のあり。あは詰地乃前と
云ふ。又坂を江戸分毛まで平出之坂あり

松井田より坂平二里

松井田海教区右約一里。比地を松枝と
云ひ。又横川と云ふ。又雲雨あり。筑

根の雲のどく。性毎のあやうし人とし
妙義の松井田は南なる。たよをびと
松井田より坂平乃西まで凡五里なり
つとたつ。あは詰地乃前と云ふ。又
地系一室のあり。あは詰地乃前と云ふ。
あは詰地乃前と云ふ。二町あり。町を
民家これ色妙義の系結と云ふ。地
息と云ふ。町を東にあり。町を東にあり

坂本乃るふ。世俗せきじゆよいふ。ゆりある。俗
物モノ是あこれ。俗と云あり。凡たゞゆりある。俗と
云人古書ふるしよよる。世俗のつひ。俗あり。事
俗じゆくト。俗。但日本武たけなづを。とわ。ま。り。く
い。俗。け。り。け。い。俗。の。日。本。武。を。さ。り。あ。い
し。俗。又。若。後。統。治。も。百。合。の。大。臣。は。た
俗。を。強。力。を。面。あり。て。つ。よ。ら。り。し。人
なり。と。い。俗。日。本。武。を。統。治。し。よ。と

ありあり。武勇を。れ。て。さ。ぐ。れ。る。俗
は。あ。い。ん。と。や。く。い。俗。へ。ん。の。ぶ。う。俗。を
世。よ。云。俗。の。俗。祇。天。皇。の。世。に。日。本。武。を
た。大。臣。の。光。の。子。百。里。の。大。臣。九。列。の。地
司。と。して。たり。若。後。よ。後。を。れ。り。と。い。ふ。
日。本。武。を。と。い。代。り。たり

坂本より。雅井。次。へ。二。里。三。十。町
坂。本。人。家。百。二。十。町。所。を。坂。と。云

日本書紀

碓日岩へとも。此より入谷の所なるを東の
あはれうすむけの坂あり坂あり坂あり
今と云ふ所の東海及び是柄の東山
此の東にこれども是柄の東の如く陸路
よにあらず坂中此の碓日岩の下の東
くはあらずそのまは坂ありてまは
右坂と云ふ坂ありて平ありて東の
又碓日岩よとも。此の坂ありて碓日岩

か東より入りし。或る所なる東の東
かまの山の東は徳と云ふ。此の東の東
みゆ。昔日本は東にありて碓日岩
今存已乃方所なり。此の東の東
交映く吾婦者耶とのまはれあり
まへ。もこの東は徳と云ふ。此の東の東
中紀の系は紀より入り。碓日岩よ東
陸より。町を。冬に雪あり。たに徳の東



現る。比而止。此は法住院。昔は日足
 了也。新田義貞の三男。其名も義貞と
 是れ。將軍の氏と合我りし事。本年は
 及ぶ。

柳井沢 佐助佐久 分寄掛へ一里六町

柳井沢 佐助佐久 分寄掛へ一里六町
 柳井沢 佐助佐久 分寄掛へ一里六町
 柳井沢 佐助佐久 分寄掛へ一里六町
 柳井沢 佐助佐久 分寄掛へ一里六町

ありて。故乃人各持る。元江産分坂中と
平地^{ひらち}也。漸^{あだ}とる故坂中已地形^{ちがひ}なり。坂
中分難日と二里十町^{じゅうじやう}併たりて。難日分難
井^い深^{ふか}とす。のふ事里^{ことり}とす。ゆへに其法^{そのりやう}
分^{ぶん}甚^し焉。元^{もと}作^{つく}流^{りゅう}ハ日^ひ中^{ちゆう}此^{こゝ}内^{うち}を^を地形^{ちがひ}なり
とす。元^{もと}と云^い。其^{その}海^{うみ}を^をくして^{して}山^{さん}と^とよ^よと云^い
。四方^{しやうぱう}の^の隣^{りん}五分^{ぶん}作^{つく}流^{りゅう}より^{より}よ^よ路^ろの^のなり。
甲斐^{かい}飛^ひ原^{げん}と^と地^ちと^とく^く陰^{いん}亂^{らん}なり^{なり}と云^い。元^{もと}作^{つく}

流ハ分^{ぶん}作^{つく}流^{りゅう}なり。故^{ゆゑ}分^{ぶん}作^{つく}流^{りゅう}ハ分^{ぶん}作^{つく}流^{りゅう}なり
甚^し焉。水^{みづ}ハ分^{ぶん}作^{つく}流^{りゅう}ハ分^{ぶん}作^{つく}流^{りゅう}なり
と云^い。元^{もと}作^{つく}流^{りゅう}ハ分^{ぶん}作^{つく}流^{りゅう}なり
作^{つく}井^い深^{ふか}將^{まさ}掛^か返^へ分^{ぶん}。三^{さん}宿^{しゆく}乃^の小^{せう}浅^{せん}乃^のガ
巖^{いわ}乃^の銜^{けん}より^{より}そ^そ。其^{その}地^ちを^を言^い。一^{いち}比^ひ三^{さん}宿^{しゆく}分^{ぶん}
也^{なり}。水^{みづ}乃^の里^り併^{へい}。亦^{また}為^な二^に三^{さん}里^り程^{ほど}。つら^{つら}乃^の廣^{ひろ}
形^{かたち}之^の。其^{その}甚^しく^くして^{して}穀^{こく}生^{せい}せ^せび^び。稗^ひ菴^{そう}麥^ま
乃^の生^{せい}び^び也^{なり}。畠^{はたけ}也^{なり}。又^{また}菓^{くだ}の^の樹^{じゆ}也^{なり}。民^{たみ}乃^の

小井極木あり。石の北といつべし。昔は
憲政から。苑所を命を將として二万余人と
別白井の地へ發向し。武田信玄より
松尾信房を以て。極井沢よか合て戦
ふ。計極地務利とゆふりといふ

當掛より遊分一里三町

當掛家敷六十町。新井町。おにり。後
弓へ移りあり。藤と一里。藤より後

へ一里。守りといふ。おにりといふ。二里。地
ありといふ。藤と一里。守りといふ。藤
をくも也。極井沢より當掛と一里。藤と當
掛分遊分の界の地。おにり。藤と一里。藤
より藤家二とありあり。古宿といふ。おにり
宿あり

遊分より小田井一里守

遊分の町家八十坪。是本宿といふ。おにり

此多^くあま^くなるを遊分と云。宥^くの西
 より小玉へわたりあり。浅^くなる所^に遊^分の
 西^北より遊^分なる。遊分より吾^が先^きち十八
 里^を越^え後^に境^を実^川と云^ふ所^に遊^分より
 二十^四里^半あり。越^え後^にの遊^分へ遊^分
 三十^餘里^{あり}。越^え後^により越^え中^にか^き越^え
 ありて^は多^くの^り毛^も小^こ境^に遊^分は
 海中へ出^るる^も小^こ境^に遊^分は^は遊^分

分^は小^こ玉^乃二^三里^半ありて。小^こ境^と云^ふ
 城^{あり}。牧^所周^り遊^分分^に。小^こ境^田中^と
 なる^上田^への^り毛^も小^こ玉^乃二^三里^半
 八^里半^{あり}。上^田の^り毛^も小^こ玉^乃二^三里^半
 松^木保^安房^守遊^分は^は遊^分
 物^{あり}なる^も小^こ玉^乃二^三里^半は^は遊^分
 一^と云^ふ。上^田と云^ふ所^に上^田の^り毛^も小^こ玉^乃二^三里^半
 の^り毛^も小^こ玉^乃二^三里^半は^は遊^分

と云。是より上北の沼田ともうけおし
と云。沼田の上列麻栲のおく。是より上を
し。上田分松城菅光寺などあり。御城へ
ゆくと云。川中嶋を道なり。姨捨の上田
分六里先よりと云。又神敷之。芳乃系心
の上田よりありと云。小縣教之。依原の小徳の
中なり。松城の上田信豆高の夜形城と見え
又丹波嶋と云。宿あり。筑摩川と云。

と云。川中嶋なり。筑摩川と云。川よ
中よりあり。川中嶋と云。是より上は横河
あり。菅本常義仲と。平家北方と。越
後城を命と合戦あり。永禄の
中。上田信玄の甲列あり。若尾徳信の
城人を合して。川中嶋に合戦あり。菅光寺
乃先より戸隠あり。神六の軍惟茂の
と云。戸隠の神六の神六の神六

且大社之遊を以て川中嶋を十六里行ると
云。吾先ちの町必ふ及筋之吾先ちの敷居
のち田十三里行ると云。後君が嶽に
ありてさうとてを禁じ比ふ死に。さうく
いふさうとてさうに綱立申さうとてい
さうとてさうとて又さうとてさうとて。けさ
よりよよ来未生せぬ。一日の内さうとて綱
が死に付ぬ。大座けさうとてい。さうとて七里に
る

果しく呼吸動きて血茶碗の熱をひきさ
て被る申さ。焼るると死と云。わけら死に
とくある。たうとてさうとて。常にあるより
さうとて。大焼いまれ。少焼い時とあり。江戸の
あさうとて。比山大焼の折は。時とて。死
来る申ありとて。さうとて。江戸の方へ近
流尾張の方へさうとて。伊勢島線と葉本の
たりの次牙。伊勢尾張のあさうとて。後君

が嶽と見えて。奇山と云ふもさういふ山だ。修
持尾嶽の方より山を登く山頂よりして
見ると。約がたけの結尾あり。業平の自説
と此の色あて。浅方が嶽とよめる奇山。
伊場物産とあつた人あより入へるや。
追かより小田井へり。さうなつたわりのさう
取より。元控井沢分和田炭井。東まどの
るの氷たがれい。若らくま川へ落合て越

後よかがる。松嶽よ青武田佐玄の家。此
の飯塚正昌信を説す。ま川へ貝津の地と
号す。〇柳系と云名所と川中橋よと云
小田井より岩村田、一里八町

小田井の家三十室の軒を。家のまどとして
まづのあり宿と。小田井村南よまの西の
嶽よ飯とありたる。かくたふ飯。飯。嶽
といふ。ま東よまどと八がけと云。峯。八河

ゆかり。又八岐と云。凡けさ田方たの上
二月迄雪多し

岩村田より塩名田一里八町八町
岩村田の町家八十許。町の入口より小橋
へ移りあり。二里多。岩村田と。塩名田は
る小。平塚村。神ノ塚村。下塚原村あり
塩名田より八橋二十七所

塩名田の町家七十許。町の出は川と

筑摩川と云。名重之。大河なり。小橋と云を
つ。げ川出がれと田成あり。川中橋と云ぐ
つ。昔是もつ。中里と記を流れ。越後言
田よ出て海へ入る云

八橋より岩月三十二町

八橋の町家百許。八橋のまを。げる。令の坂
庄生坂と云。坂あり

岩月より岩田一里八町

岩田

十七

至月乃町並而行。町並や木石の築き。
昔は舟中の代々居候あり。新朝に時。
此ら月夜津。先づ二人。その時より。公士
かりといふ。城山のふかなる。沿え。至月夜津
の君下かり。至月の約。至月の牧。古奇
よよあり。いよ。御牧七といふ。いよ。
皆山牧あり。といふ。今いふ。至月夜津の
く。名物。今も。其性。至月の約。

姫乃ゆりて。至月并。御牧七。其内。藤を
のり。瓜。と。いふ。他。前。今。尋り。て。も。一。宿。を。ゆり
さす。至月。より。又。科。へ。七。里。姨。控。ひ。
九。里。昔。光。も。の。十。六。里。幾。度。も。田。八。八。里。あ
り。至。月。と。昔。田。あり。お。れ。方。言。に。お。れ。に
る。至。月。平。も。あり。下。下。の。系。に。至。月。夜。津。下。三
里。よ。あり。至。月。村。あり。是。の。夜。より
名。も。昔。氏。田。修。云。と。村。と。義。法。と。云。

（？）

（？）

野平山と合戦あり。後、修玄と徳信
と。比取しと初夜^{しよど}の軍あり。又、たより根
津村と移る。根津^{ねづ}甚平が居る所也。根
津村の下に在る。又、そとに夜沢村有。
本名、小原^{こはら}と云ふ。夜沢と云士^{こゝろ}といふ所人
もや。比取しと初夜^{しよど}の方より、田舎あり。あはれ
ふる。あはれと、芦田^{あしだ}出る。石原^{いしはら}坂と云坂あり。
又、たよりと、夜^よと云

芦田より長久保へ一里は八町

芦田^{あしだ}町家百軒。比取しと、芦田^{あしだ}に伊集^{いじ}原^{はら}居
海^{うみ}の沼^{ぬま}あり

長窪^{ながくぼ} 小縣^{こがた}河^がより和^わ田^だへ二里

長久保^{ながくぼ}の家百餘。下和^わ田^だ村。長窪^{ながくぼ}の南に
大門^{だいもん}村あり。まゝ、又、大門^{だいもん}岩^{いわ}あり。たよりは
あふ小^こ高^{たか}。びう、武^ぶ田^だ修^{しゆ}玄^{げん}と修^{しゆ}外^{がい}の鉄^{てつ}砲^{ぱう}小^{せう}
道^{みち}系^{けい}よの合^あ戦^{せん}あり。大門^{だいもん}岩^{いわ}合^あ戦^{せん}と云

和田より下の旗務へ六里十六町

和田の町数百餘あり。はるる和田^{たけ}麓あり。
坂^{さか}長し。上下あつく二里半餘あり。東坂の
やどらうまきで西坂はけらう。ちかきと^{たけ}旗
み^みあらず。三月末まで名の雪あふし。
^{こし}旗^しもをかたのこたり。麓より東七八町は
りりや村あり。麓より西五六町よりやなわ
り。びわくより冬は雪あふし

下の旗務より滝尻へ三里

下の旗務は和田麓に坂あり。家七百餘
むらあり。人おかくあつむれり。坂はざり
はよ。下の旗務大の村あり。是ぞと云ふとい
ふ。是町おのち方あり。そ先^{まへ}町れはざり。お
も大の村の社あり。是秋まといふ東の方
かり。大の村は正月朔日よ暮りまよう
つし。七月朔日よ秋まといはし。ま^ま毎



度秋興よのせ糸くひ元日あみおれかし
 七月朔日あ糸わたりま糸あますますとん
 秋あはる社かり。秋あみますすうたはま
 糸はる社かり。上乃秋傍よ下れ秋傍より
 三里あり。上の秋傍の糸三月園の目る
 了。園此目三あもは中を月二わまを初と
 用糸の頭と七十又。姐よのせ。糸あはは
 又別よ糸肉と料理し惣てをわ社

の林あり

三十一

人にも其麻の肉を食と。他人に社人ありゆ
りとか其麻の肉をくらふ。麻のじうくの
獵師ヤシ又ヤシ之ヤシ輕ヤシたもヤシとヤシの。おヤシ集ヤシりてヤシ指ヤシ
ぐ。下は飯湯のまつりに麻の皮をまきと下
は飯湯の社人も麻の食のゆりてとわむと。
上の飯湯よのゆり七十五をた祭あり。
と下は飯湯を及負タ廉之。社人にと下は社
人も各一人は。総社とも一人なり。上は

社も其総社者一人あり。又社傍に上下の
社も各二坊有。社傍へ上よふる。下よふる
右附り。上下を以七多に一度毎寅御柱
とて大祭あり。事をタ里方より人多く集
り。其儀式おびに。四月申寅日とて
るぐ用ゆ。下は飯湯より高橋地へ一
里あり飯湯を及負タ居地あり。三方二
ふるはり。地の湖中よあり。三方の湖を

陸の方一方向り入口あり。ま前よかゝて
入河許あり。丸太の浪なり。凍し。まゝ橋
有。橋乃下へ川なり。船の出入。自世之橋か
あもあゝ。紙。衣が橋と云。若前之。びあ
富士山の類うつと云。雪海乃奇に。徳法
なる衣が橋よ。甚て。すれ。富士の上こく
わま。お物。舟。ま本集。お舟に。よ。い。海衣
か。み。う。記。が。め。は。は。い。き。う。づ。じ。は。ち。り。つ。と。し

海より上の。復務。は。る。一。里。寸。餘。あり。湖
の。わ。り。と。海。う。じ。は。田。中。と。り。上。の。復。務。と
甲州。乃。な。り。江。戸。か。甲。州。と。海。を。な。ま。ま。ま。し。出
來。う。り。又。ま。ち。り。甲。州。と。海。乃。小。色。下。此。復
務。か。こ。う。類。類。務。の。海。濱。浪。皆。名。正。なり。
古。奇。ま。の。復。務。乃。湖。ハ。下。復。務。乃。町。乃
南。よ。あり。ま。ち。り。一。里。寸。あり。見。渡。し。と
二。里。程。よ。み。ゆる。湖。ま。ち。り。あり。て。東。西。約。四

何どひあつては海に舟七尋をりありまのり
又浦くありて民家多し。雪方に多し
あり好氣之漢人多しして魚とらる。漢
舟多し。漢舟の外船も多し。舟は守
け湖をまはる氷をりてす地と遠る
なく。湖一面よふさがる。年法を温ま
す。雪月の初仲秋或師をり初より
氷をりて後人まよふ所ある。昔もと

よりて正月の末。二月の末を氷北と云
る。二月末までと云はれ二月末まで
上。雪をればおそく消る。氷のわのさ年
よりり八尋。一尺二三寸あり。そよに何れ
大木大石を並てとらる事あり。貴人
見たりともあやうかど。氷の上を歩るゆ
んをさしてある。まよふ雪つめが雪の
たのびく。んをさしてす。らんち

履して色む。ふらふらふらふらふらふら。目
本玉仲又湖多しとてどとてくはとく
氷をうらふし。修治の日中あまく最地
きくして雲采雲ふくこ園なる所也。
湖の上よ冬をうらめて氷をりて第三日
あ氷落れた。第四日又日の比上は湖氷
らり。下の湖氷の方にはとてとてとてとて
大なる本石なるの重りうらむく。氷の上

わと付しみゆ。是あまゆらとてとて。奇
怪の事。是を御後と云。又祚先とて云
沙後わりて後人とする。御後なる内は
後らと。水なるはうすし。此の事よ。ち
後の事とする。上の湖氷より所の事。うら
まか。下の湖氷。此の方には後わらうら
る。是を前よ。うら。年終を。此の事と云
沙後の事。うら。又。此の事。うら。此の事

ま。海川院後石首神祇御座仲が奇よ
すとの海北水の上の通流の神のこころして
らるる。くまりのとよめはまのん。トれは
よ温泉三つあり。上の海傍よ。田舎まは
取の人の物夕よゆわも。或は夜に流あど
とらと。皆温泉と月少。性氣の強介
多くけ湯よへ。び地とて。浴湯とて
す事少。湖中少と温泉出の。ま下

水あをびとつり。岩生うたれよ入る
と流浴のためよ入湯といふ。まのひ湖
水をりて漁人水う下あをと引と水
引と云。これ又奇異のまごかり氷と一
ぐらうぐらして。まあまわをま入まこ
先かうぐら。竹の竿を括てまへのうがら
うのあより。次のうぐらたるあまごあを
まのやとて。炭あもく。あくと。流う

て。わさといろくともわて魚殖と云。首の
くみ物くとも。とてをあらびてをま
漢人ともかたり致せばともりの。下れは
より富士のふり二十ふ里ともりも。あ
南の山はこころの駿河とて南より見
どししあもくとも。但信濃の地なとも
富士はまききくへん。は湖は水の池
方よかづれ。南は倭奈和とてくを別

いそ天流川とあり。もと流川の源は
す天流のこころまで。日流あり。その
飯沼のじうひれ。風凰がだけとも。ま
れらちるがづけとも。湖の長みあり。山
はがづけとも。も小田井より見へ。八岐乃
山あり。何れとも。湖の中あり。小川
より。いそとて。魚をいそ。て。まははあ
あ。いそ。の。か。は。と。漢。人。と。る。り。あ。は。の

どねより北田のどことよはがらなりて後
らづら。簾をたててわもよとら。比比のふ
毛沢赤魚しつよ。伊奈郡のさうわまで
下の飯沼の四里。伊奈郡の右取の伊奈
郡の河内二あり。そのを飯田なり。そのを
飯今八。河内飯沼の飯沼三。そのを飯
田の飯沼の飯沼の飯沼二。そのを飯
と飯田の右十里をら。下の飯沼より飯

へ十八里。そのをへ八里あり。川中橋へは
飯沼より十四里をら。越後のさ田三
十里。飯沼のあり。夏蚊か。かひもど
と人どららど。そのを飯沼の飯沼二
尺五寸をら。小園より右沼。そのを
そのを飯沼よりをら。下のそのを飯沼
飯沼の飯沼の飯沼の飯沼の飯沼の飯沼
まより。そのを飯沼の飯沼の飯沼の飯沼

飯沼

飯沼



塩尻^{しほじり}を坂^{さか}と坂^{さか}と。松^{まつ}もた^たり^り。菅^{すげ}民^{たみ}田^た
 わり。び^び乃^のあ^あし^し系^{けい}橋^{はし}あ^あと^とみ^み阿^あり^り。菅^{すげ}民^{たみ}田^た
 信^{のぶ}去^さ下^{した}の^の海^{うみ}防^{ぼう}の方^{かた}より^{より}あ^あ。松^{まつ}中^{なか}の^の海^{うみ}は^は小^こ
 笠^{かさ}原^{はら}へ^へし^し。本^{ほん}宮^{みや}本^{ほん}集^{じふ}を^を。桔^か梗^{げい}系^{けい}より^{より}出^でて
 塩^{しほ}尻^{じり}より^{より}。甲^{こう}州^{しゅう}防^{ぼう}と^と信^{のぶ}濃^{のう}原^{はら}と^と合^あ戦^{せん}を^を
 一^{いっ}つり^{つり}。塩^{しほ}尻^{じり}より^{より}。西^{せい}筑^{ちく}麻^まの^の形^{かたち}なり^{なり}。び
 坂^{さか}より^{より}。富^{とみ}士^しふ^ふこ^こゆ^ゆ。又^{また}上^あり^り海^{うみ}防^{ぼう}。高^{たか}崎^{さき}坂^{さか}
 こゆ^{こゆ}敷^敷

塩尻 洗摩河分洗る二里

塩尻北町家百餘軒。町口方北方八幡宮あり。南に西の松中北流之水北集く。田反餘内之松本味七百石あり。松中塩尻より四里あり。平敷の比より中より。石。信濃より入る。廣くは多のあり。越後の方へ流る。松本より仁科と通りて。越中への道あり。塩尻北の西の坂より北

下大洞の流あり。塩尻の西に信濃原とて廣くあり。田畠あり。若竹寺の先寺耳利な流あり。松中の流より北に氏と。信濃原より合戦よりあり。軍佐云。松中流の西よりあり。井原の東にあり。皆出がれて洗摩川へ。口して越後へなる。

洗るより北之三十三町

洗^セ子乃町家八十軒むらり。この町北東入口
より。多野集人後茶屋あり。西乃お口より小
沢川をはいふ二里より今井といふ所あり。是
年かゆしあり。是を^ニ室^ニ説^セあり。本曾より
己今井といふ所を平位せしと云。洗子の
死より本田乃法よりとて水あり。本曾義仲
のころ成ありといふ。西^ニ洗^ニ子^ニと^テ名^ニ付^トと云
○洗子の松平へ宮を台を寄へ十九里。越後

より田へ一里。川中^ニ鳴^ル内^ニ松^平ありの町を
十一里。松平へ橋あり。より六里
中心より^カ換^ル川へ二里

中心乃町家八十軒後を町より西れお口より
橋あり。たより川かぐろと云。本曾の分あり。川
本曾松平台よりあり。は。より先より松平と
云。西より橋より本曾流し。本曾の尾松平の
水あり。是か松平の流し。より西より本曾の

○松平上

三十一

橋をいへばある。それが川にたどり着く。尾列君が國西を
まじ急川を川の後にたどり着く。尾列君が國西を
狹川よりある井へ一里半

狹川の所が六七十里あり。所の東に入口
太の方に番町あり。がこみ村を坂ととり
舟場をさか川をちよんる。平治村を二河程
ゆるゆる井橋と云ふ。さか川をたよんる
ちよん井が教東へ一里半

ちよん井の町に森田をり。は町よんか
一とまげ物どねわりておぼくう。小
巖を先よ小とけし二と。修まよある
何業の合戦湯を名井巖合戦と云ふ
は天正十年に田舎村か。今後幾あちと
おらて人殺八子解い。西に教を本ある
政義政修と云ふ。方らて七子解い
ちよん井へ池向戦々が。右揚利と云ふ

甲辰陽河にゆく村とて名を指すは是の所
後先上りて。本名及後現水と云ふ事。名井泉
の味月泉が故と云ふ。是の所のりがさきありて
不毛。青木菅の山嶽の多病室に比し
名付と云。今も居り。坂田西にありは教原
乃入はるかお上り花深れさうへりたり。さうへ
昔は念遠及居候。是が十九里あり。花深
は江戸へりふははらわら。是が花深へりたり

は甚難形とて是は名中か比。判よありて取
をよすすしと云

教原より文の越へ二里

教原町家八十をりて。げ本木名村並上よ
り入る。是もさ下る。名村と云ふ本名也。是
乃十七里を越。是は原の山道也。後日分紀文
武天皇大業二年十二月。始て美濃國
改蘇心乃と云く。是の記あり。昔は美濃よ

美濃國

大業二年

十二月

あせりつるべし。高尾流る流二玉のる流地
あて通流つりしる。以時始てけしとけ
て遊流おまふ事。又流見し紀元の天白流
よとるしつり。町つる小本流川志よみゆか。菟
糸不門よは菟葉と云村と。是か材本まふお
と云川よは菟葉不和よは村の。是本流川
の水と云。凡本流若い水と云。ひびく。右田村
今二三町の。本流川よは菟葉。是か川と云よみ

美の越つる。徳島村北川じく。たよは菟
のまふ。是本流義仲社と云。是と云
河文流と云。とよは平の。ゆか。流のこ
と云。かたつらつり。と云。社つとよは本流義
仲の。流の流。平比つり。横二町つら
つと云。六町流。是川じく。たよは流。是
よ。巴が。流の。わと。安小。よ。吹が。平と
たよ。流。是村つ下。は。流。わ。本流川

乃橋くば橋とてこれぞ本考の証なるやう

又の勝ふ福崎へ一里す

官に橋家殺す事わむらむ。又の腰よ
つ三町移めい道よりたよ橋に江戸が
屋敷の池を平比入。樋に谷といふ。又の腰
か一里下に田と云ふ所あり。意平が父なる
乃伸三意をが屋敷の池あり。本考義仲
の父平刀先生義賢。然源を義平よ

これなり。時義仲二歳あり母抱て
信濃より下り本考は仲三意遠を頼む
意を志す育ちてしけり。本考は本
考乳母夫伸三橋も意をとりわりの言の
勝ふ本里下に系地と云町を。またたよ
地ら系地といふ。また材本多し。系地の
か下たよのうと云ふ。またよ約が嶽わ
る。約が嶽といふの勝の一里下に。また

約ひらと似にたり大おほなるを成なりむ村むら下したより入いり
けしめ等ら二にも。約ひらなるくねくねなる大
嶽たけしととたてたつともくねくねなるをを成なりむ
くも。もして本もと乃のくく。空そらの雪ゆき。おのぶ
用もちあひ消くへ。八月はつげつよ又またつり。約ひらぐいけの
藤ふじ大おほなると云いふ。もあよ川がはがぐる。約ひらぐだけし
つちの水みづなり。びびや東あづまへ修しゆ茶ぢや終はつたり

後のち約ひらよりと松まつへ二に里りす

後のち約ひらの町まちあ教しやく百ひゃく三さん年ねん物ものなり。本もと乃の中ちゆう
ようぶら。次つぎ。修しゆ法ぽう修しゆよりをを成なりむ。町まちの法ぽうの
賣う物ぶつかどとわり。町まちの入口いりぐちに虎とらの方かたよ。云いふ依よ
けり。四よ番ばん不ふ之し。はあして是こゝへか若わかか。後のち
物ものと女によと。いまうと。しつ事こと。を列れつ意い
江えのぐい。心こゝろ村むら甚しん素そと云いふ人ひと。尾お列れつの
兵へい方かたなり。はあよ。修しゆ法ぽうなり。知しりせぬ先まへ
祖そへ本もと乃の義ぎ政せいのあくなり。町まちのじうい

具^{ミツ}禰^ノ多^クとて縁^ヰもあり。板^{イタ}波^ハ波^ハを^ノもよ
已^レ七八町^ノなりて木^キ考^{カウ}の^ノけ^ケ橋^{ハシ}も。木^キ曾^{ソウ}川^{カハ}
に^レけ^ケる^ル橋^{ハシ}よ^クあ^ラび^ビの^ノと^トい^ハた^タ橋^{ハシ}絶^ツる^ル
而^{シテ}よ^クけ^ケる^ル橋^{ハシ}も^モあ^ラる^ル方^ハ木^キ考^{カウ}川^{カハ}に^レけ^ケ
たり。横^{ヨコ}二^ニ房^{ボウ}也^{ナリ}十^{ジュウ}房^{ボウ}あ^ラる^ル板^{イタ}橋^{ハシ}之^ノ欄^{ラン}干^{カン}路^ロ
敷^{シキ}旁^{ハナ}ハ^レ石^{イシ}地^チ所^{トコロ}つ^クさ^サじ^ジう^ウあ^ラわ^ウる^ル更^{マシ}
け^ケし。今^{イマ}ハ^レ危^イ列^{レツ}志^シより^リは^レ橋^{ハシ}環^{カン}堤^{テイ}固^コま^リ
け^ケた^タり。御^{ミコ}あ^ラわ^ウる^ル死^シす^ルか^ク。川^{カハ}じ^ジう^ウ西^セ

の^ノ方^ハ木^キ考^{カウ}の^ノ心^{ココロ}も。川^{カハ}木^キ大^{ダイ}あ^ラる^ルふ^フう^ウと^ト潮^{ウシ}も。
至^シも^モ川^{カハ}に^レ大^{ダイ}な^ナる^ル石^{イシ}多^タく^ク好^{コト}景^{ケイ}の^ノ後^{ノチ}
嶋^{シマ}の^ノ下^ノ小^コ西^セの^ノ首^{ウタテ}より^リ別^{ベツ}又^{マタ}大^{ダイ}あ^ラる^ル川^{カハ}木^キ大^{ダイ}
あ^ラる^ル石^{イシ}も。敷^{シキ}原^{ハラ}の^ノ方^ハより^リか^クづ^クる^ル木^キ考^{カウ}の^ノ
中^{ナカ}若^{ニガハ}より^リ水^{ミヅ}程^{ハジ}程^{ハジ}あ^ラる^ル。おん^{オン}け^ケ川^{カハ}と^ト云^フ。
おん^{オン}け^ケの^ノ木^キ曾^{ソウ}の^ノ御^{ミコ}嶽^{タケ}なり^シ。ま^マ若^{ニガハ}は
奥^{ウチ}又^{マタ}材^{サイ}木^キ打^ウい^ハり^シ。後^{ノチ}橋^{ハシ}より^リま^マ若^{ニガハ}の^ノ
川^{カハ}上^ノ十^{ジュウ}里^リむ^ムら^リを^シ。川^{カハ}より^リ材^{サイ}木^キ多^タく^クあ^ラ

る。殺里翁上の方ぬ。本方の御へけとて。
 約ぐけより大あてささひあり。おり
 わるれつ。はのみ雷わをさひかり。富言
 別ふさむぶ種つらふ。おの人のあんけと
 云。地嶽いひなり。川乃東のたよぬけけき
 井も。ま地と合後と云。ぬけけ川と。中谷
 の川とり合かれ。合後と名づく。け
 地が御へけとも。元本曾の中よ。木本多

う事いふ及む。推さうう松高本もや
 記多し。板や。さやこへむくしてあみ
 うをさす。版よりくちと半ぬぐう。ぬけ
 よま本許よまう。山中ぬをたのやうよ
 色さうの本多し。大本も。系がけ本に
 ぬかり。板いさぐに。してさむい。これと。実酒
 目。棟子ぬぐう。お氏とりて粘ふし
 餅うして飯よわて。念と。む乳い罐えんをた

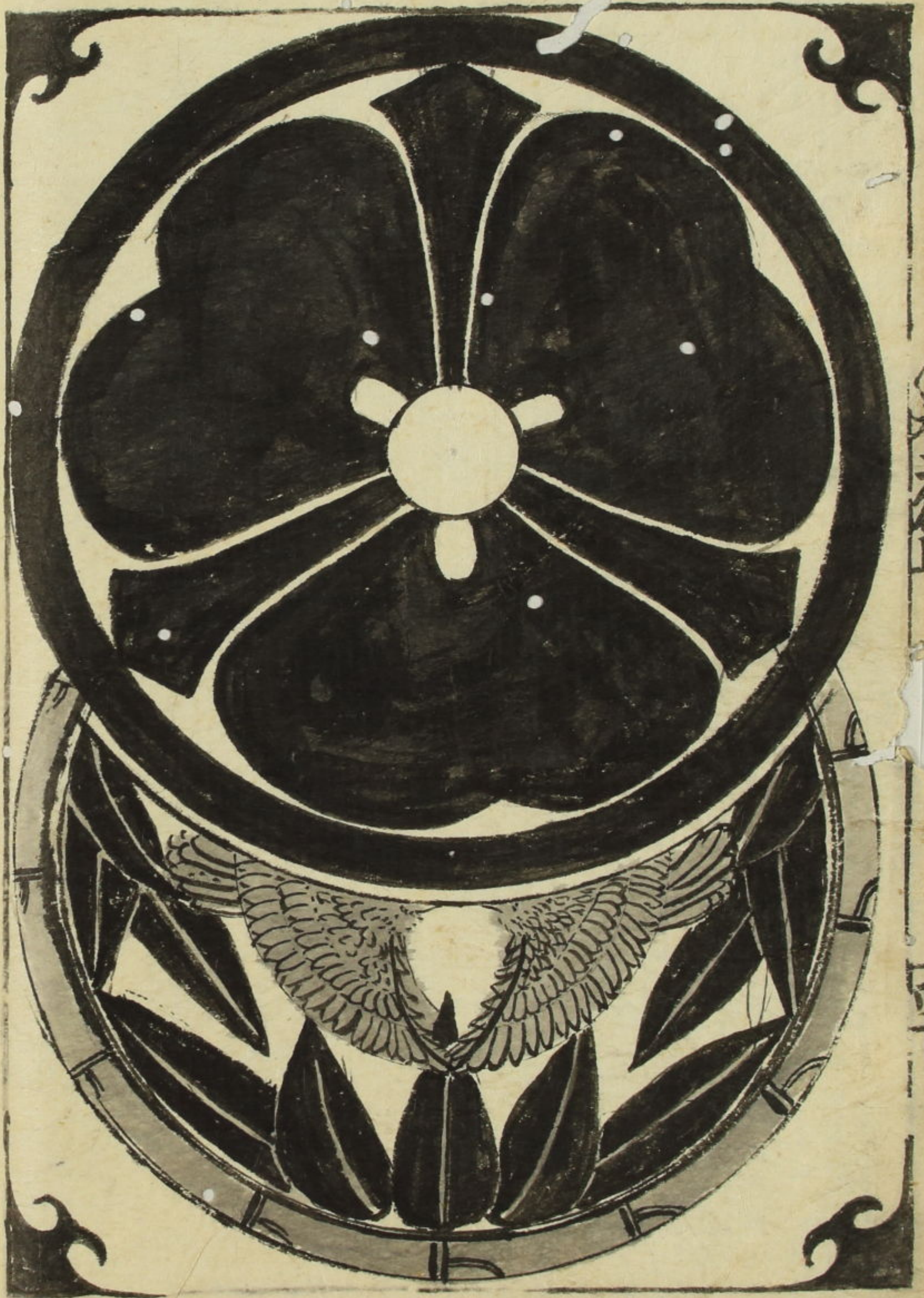
とく。ま本横紋ありて。夏は他へべると
いども。危別より禁制をこしてとらざる。其
以民州食物よりとらざる。少くは材木はさる。松人
の危別よりわ泉紀係近に松人會
傭ておらる。毎夏春の雷消。二三林
よはよ入して十月よある。およそ幾ふ百令
ふし。松人あらず。およそ松人松人ま
りりあつて。毎日おらる。おらる。松人
本曾へ通る。び松人を山中に聚る。居
候と。本松より材木に割。或は松より
て。松人計わらる。少くは松川へおらる。い
ろくおらる。水よ流ておらる。川中おらる。よ
かりておらる。おらる。松は松。おらる。松
て。おらる。おらる。おらる。おらる。おらる。
おらる。おらる。おらる。おらる。おらる。おらる。
おらる。おらる。おらる。おらる。おらる。おらる。
おらる。おらる。おらる。おらる。おらる。おらる。

とく。ま本横紋ありて。夏は他へべると
いども。危別より禁制をこしてとらざる。其
以民州食物よりとらざる。少くは材木はさる。松人
の危別よりわ泉紀係近に松人會
傭ておらる。毎夏春の雷消。二三林
よはよ入して十月よある。およそ幾ふ百令
ふし。松人あらず。およそ松人松人ま
りりあつて。毎日おらる。おらる。松人
本曾へ通る。び松人を山中に聚る。居
候と。本松より材木に割。或は松より
て。松人計わらる。少くは松川へおらる。い
ろくおらる。水よ流ておらる。川中おらる。よ
かりておらる。おらる。松は松。おらる。松
て。おらる。おらる。おらる。おらる。おらる。
おらる。おらる。おらる。おらる。おらる。おらる。
おらる。おらる。おらる。おらる。おらる。おらる。
おらる。おらる。おらる。おらる。おらる。おらる。

澤織と云ふ所より。ひらよつ孫と云は
かどをわけてひらよつ孫と云は
と云ふ。家とて孫と云はひらよつ孫と云は
へつと云ふ。樊田の内西の方よ。白鳥と
云ふ。舟舩はひらよつ孫と云は。こま地と云は
人。實とり孫と云はひらよつ孫と云は。二
人つ孫と云は澤織と云は。ひらよつ孫と云は
と云ふ。澤織と云はひらよつ孫と云は。本堂と云は

本堂と云ふ事と云は。制榊あり。夜
一と云ふ事と云は。ひらよつ孫と云は。

本堂路記上終



本曾踏記卷下 貝原篤信記

上松わがより汝系へ三里九所

上松の民家八十をり。けきを汝系と
ふとどれより。所よりおのりて。極坊大
師神のをり。指あり。それよりさたり
寝ねえのらや屋あり。上松の所より
いらや屋まで。すまふ所あり。ま三里に
い近ちか。茶屋より。また二所程あり。約

のさしつかへなくある。またおまへのい
へばいあつていふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに

いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに
いふにたゞいふにたゞいふに

他所のすむれたる風系にまゝて奇
妙ある風系なり。ゆたしくさか濠をのむ
にちる。びびる。なよものくびく。浦
傍が事。日本紀よみん雄略帝紀ゆり并にい技
桑畧記いよりくべ地よりくべし
りくべし。又し。本所の秘がわら
床。二夜の秘あころのありく。ま
まのまどくよあり。まどくは

くは世俗の徳よわらり。又飛いま
り。徳よ。本所の中にく。二徳所の
く。あ。あ。ま。ま。の。よ。あ。ひ。り。り。
し。は。は。ま。り。性いなる書よ。ま。ま。れ
に。二。あ。り。信い。び。り。○。秘いまの景
屋とく。ま。ま。ゆ。け。は。あ。り。川。の。橋。と
ま。ま。る。橋。わ。り。あ。り。山。形。の。濠。あ。り。
り。ま。ま。る。濠。わ。り。細。川。玄。音。乃。む

〇本所

四一四

乃本名然といふ紀行よ。本名河内野
の勝といふ。布引箕面やぶらも。あま
くあつりやうら。毛袴の物乃は雲の
毛袴うしまつくよりいふ。おのじりる。やうきり
次系しり野尻を里世所
は西え祿のうらあまのうら今井
名こづきく道うら。次系の町あぢ
八十ざうり。大とあてまと橋あり。大橋

村よりみ古町より。関山の橋坂のぶよ
ありかけく。やうら。びく。は西。関あり
故よ。実といふ。○は関今井と云。あま
今井の河内。通平後ごうと。あまといふ
野尻より三さ里りの二里りす

野尻あぢあ平許。志田村より十町程
終おかてい坂あり。まを先よ橋二あり。一と
探えん干あり。ぬてんのけといふ。元佐法



路ハ岩山仲ナリ。鏡中一本芳れ山
 は深山幽谷とて。このそいぼくもい
 りけ路多し。結文新尻とて。この
 間尤あやうき路ナリ。けりたは山也。
 せいのののりれまうたなる石か
 こゝろとけ。太い教十間を記げけ
 屏風をまゝのむちる。あもあなく。そ
 下の本芳川乃流るる也。げりかけ

多し。まじよある名成ゆし。本當乃
かけし。よりあやしむ。つむも川の
ようきくる橋よわらびぞいなるのえ
ふるあよるけりる橋あり。うなうれうを
はし。唐経たむに多し。他よ。いりや
うのむげ。し。まれば。り。この尾路とい
く。よ。あ。り。て。若。入。又。先。の。尾
を。ま。い。る。あ。多。し。あ。中。の。た。の。基。

いりふ中柄とらふあめの。まじりしよ
垣及と云。あ。ら。も。あ。か。若。川。か。ら。ま。出。
し。い。い。い。い。い。あ。あ。ふ。ん。あ。あ。こ
との好系なり。又。も。下。た。の。方。横
河。と。云。あ。は。若。川。と。く。よ。り。流。る。橋。も。
横。河。の。の。う。と。こ。う。又。け。し。も。曲。
尺。の。と。く。ほ。り。て。う。ま。さ。る。橋。也。若。川
乃。奥。よ。横。川。と。り。う。村。あり。え。け。し。中。の

橋ひく〜と。尾列君よりうきあふり
まはりの志甚多く〜と云ふ

三留野より妻彦へ三里半

三留野は民家六十軒程あり

妻彦より三留野へ二里

妻彦の西乃山名の橋より南よ。なほ
及あり。清もちの越と云。これより清もち
と云。西よ六里あり。清もちより伊豆へ

約乃甚険難あり。伊豆より妻彦を
流尾法へ出るとる也。又是より伊豆へ
り。大門口と通る。飯盛山の下と云。そ
窪田へ出る。○妻彦より本芳川西側の
方に去る。清もち乃の東あり。約て妻彦
巖をこゆるゆ。本芳川と云よ。去る
と云。是よりけり。めく。本芳川をくか
ふ。妻彦巖と云え。三留野よりこれに本

曾の山中と出れば此坂。本町の邊
坂なり。俗よりこの谷嶺と云。又見越乃
峯も此の谷なり。本町分岐の所
づ道も此の谷也。本町南も。本町北もけ
ろ。本町南谷川も皆この谷なり。い
まも古の谷多し。凡本町の山中。谷川
下りて谷の邊まで廿里也。本町南の谷
其の谷も此の谷なり。石大なり。

本町。故より形多し。此の谷。山中せ
だ此の山回畠にありて。村里に
し。米大豆の松などあり。山中に
茅屋ありして皆板葺也。此の谷は
古より人土堅か。此の谷板葺なり。凡
佐渡より竹と桑の本あり也。此の谷に
も此の谷にあり。佐渡より竹と桑あり
此の谷の本と用。此の谷桶の繩あり。ハ

此の谷の本

此の谷の本

松本と月。茶の他。必より。賞。ある。か。○
孫尻より。下。川。の。竹。と。茶。の。本。少。く。え
たり。孫尻より。東。難。日。炭。す。て。の。り。み
は。ん。く。び。孫尻。の。地。衝。ひ。さ。く。して。炭。法
み。近。く。川。上。より。少。温。か。る。有。也。又。佐
濃。は。蜜。橋。榎。合。橋。本。漆。本。漆。一。か
し。毛。皆。を。き。き。う。た。ゆ。か。り。麦。は。六
月。よ。糞。と。し。申。橋。も。多。く。う。よ。と。他

印。梅。と。三。月。の。末。は。一。時。よ。ひ。く。
又。道。中。よ。い。ぬ。ど。松。と。て。冬。の。茶。の。こ。と
く。く。茶。系。麦。本。の。ね。あり。茶。系。松。と。き
る。茶。り。茶。系。酒。茶。合。へ。き。里
る。茶。の。民。家。廿。七。八。軒。許。ま。り。う。か。り。い
ち。き。所。あり。茶。合。の。末。乃。入。口。合。が。橋
と。い。ふ。も。毛。佐。濃。乃。安。里。云。那。く。茶。法。の
さ。う。い。也。毛。より。茶。い。本。常。也。本。乃。り。う。安

ついで

十一

里云那あり九修流い東の上路あり
甲斐を江三河水の越後中一飛流
西より矢流あり九八ヶ岡一溝あり
のちがさうととい巖より一長流流あり
東より千七里餘あり

落合

英法とあるが
毛より下は流

より中津川へ三里

落合の民家九十軒許これよりあり
秋坂ありいわれども改流山の中よりあり

て。嶮難ありて名やとくあり。本名流
をとおく家よわれい先我家よりあり
より名流とる。唐の侍人雍陶が流
出斜谷侍り。行遣嶮棧出慶斜出
盡平川似到家。無限客愁今日散馬
頭初見米草花。と伝りりあり。流
合のあり大とと横長嶽と云ふ
山也。南本れ城あり。ふたつき

のふわり。本郷川城も筑さぐれ。越後
川もよかろ。今いそと和泉も後岳
かり。総統一万五千石。高台と中津
川の道よりわよ。祿ざわ。廿里あり。石
取也。一説は杭津川の上。中森といふ
ところのよう。りり

△ 中津川より大井へ二里す六町

中津川の町民家二百餘あり。根は乃

甚平の塔あり

● 大井より大久保へ三里す

大井は民家百廿軒あり。中津村より
尾列名護屋へ行るあり。尾上
乃とて台よりゆく。大久保へは
わの方へ行。けふるふ。西行坂とて坂あり。
西行が墓あり

● 大久保より細久保へ三里す

大久木の家三十戸あり。新井大久木細
久木といふ所あり。かゝる所あり。かゝる所
あり。びらふ瓦懸板とあり。び板乃と
より良の方には。木曾のくさけにせり。水
ぬか契れ白くくさる。ゆいひる。か
み。藤まで。ちりあり。毛目。三番乃
きりあり。飛騨のらあり。より。も。又
は地より。ぬ。伊吹山。ゆり

細久木より清嶽へ三里

細久木の家六十戸あり

清嶽 可見那り 休見へき聖

清嶽の民家百二十軒あり。町のら
これ方乃小ら。善王権現の社あり。
吉野は善王と説き。けり。や。吉
野山を清嶽といふ。けり。さ。け
と名付る。ありん。由嶽の町は。粟乃

くらぎ道より西の方。乃きくらに初て並
 本の松を。東海乃水し。是より東
 には乃きくらに並本の松を。此嶽
 より西の平地なり。是より東のよびて
 山あり。所の西より東の方より見
 れたことして大なる業師をまげ。是
 可思郡なれど。かゝるみ付を。ししけ。阿
 くらにや。れた。ちい。わ。り。し。ち。銀。石

石 公儀より跡

伏見より大田二里

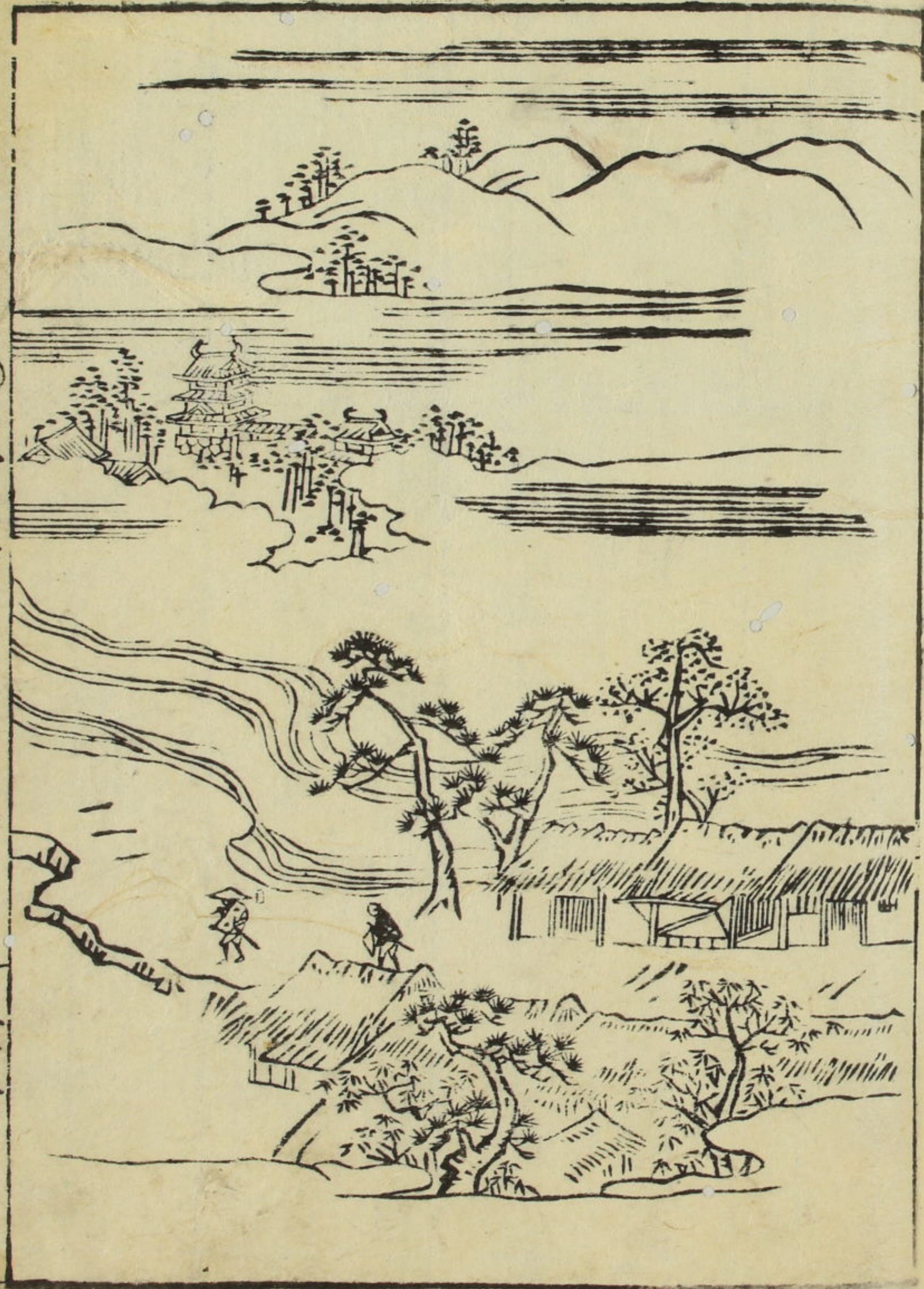
伏見の所。辰屋。平。坪。と。所。より。花。よ
 名。古。屋。へ。移。乃。と。大。田。の。宿。村。東。の。こ
 り。ふ。ち。面。川。あり。每。後。なり。本。宮。川。乃
 け。も。あ。り。ま。ま。さ。る。大。河。あり。ま。ま。さ。る
 乃。き。濃。多。し。大。田。より。一。里。川。上。河。合
 と。云。ふ。と。本。宮。川。飛。深。川。ひ。ら。り

藤合ふじがわなり。飛深川も大海ふれども本
 吉川よりわきをし。吉田川の下尾越川
 なり。吉田川より東の方平見郡也。侍人の
 ときまゐ今山之城あり。侍人の
 三本馬さんほんまは武蔵守居城なり
 吉田より新田へ二里
 吉田の宿しゆくの敷のき敷のき敷のき二百坪新田は吉田
 へ宿乃上まで松まつ多おほく本宿よりあり

新田にんたは紙かみ紙かみ紙かみ紙かみ紙かみ吉田より一里
 の方に土波となみもふる所也。吉田より一里
 流乃土波氏住所也。吉田より右古屋
 九里あり。○吉田より一里水ノ橋屋と
 りのありき。吉田の村より橋とわたり
 ちやへ出り紙かみけづりてけり橋とす。又
 流の流りし橋へけきしり出り。橋屋
 と云。橋屋より町なり。○又流紙ハ吉田

の水乾すゑよあつ武藏郡むさしのより多く出る。武
 蔵郡乃内うちの谷とてひろき谷と
 けきより結むすぶ多し出る。尾列君の山飲
 肉あり。○園のりのち田の水二里まふあり。
 ひろき所也。波阜なふにつぎり。高人多し。中
 中徳方ちゆうとくかたより出物でぶつよ出る水也。びりより
 飯治いひぢ多し。少すく分飯治いひぢもあつ。今ナ口
 水人みづひと住と。郡ぐんよの四八幡と

の水也。名者信濃しんぬち教居けいこ城あり。園と通
 べり也。水田みづうらより八幡はつぱんへ一里あり。郡よ
 の中あり。三万石餘あり。○水田の坤くま
 に向ふとて。水もあつ下らざり。水を本
 曾川そががわながは。取込とりのことり。又本曾川
 に流ながる。水みづのあつ。人のあつ。とて
 あつ。とて。又ん坂さかも。とて。のそ。いれが
 け。及および。あつ。か。け。と。二。水。也。危あやし。たいの



下の本宮川が流れ。川邊の雲多く霞々
 ありて見え事也。好^{なる}事也。河^{かは}津よとより
 藪^{たき}とほらへ。舟^{ふね}がくくる。意^いあふ
 舟^{ふね}けらぐらう。飛^{とび}ぐぬ。そ又よ
 足^{こも}舟^{ふね}も。舟^{ふね}ようとう。坂^{さか}其^{その}坂^{さか}も云
 坂^{さか}あり。舟^{ふね}あり。即^{すなは}船^{ふね}治^ち也。本宮
 より。舟^{ふね}との間の農^{のう}人^{じん}と云^いた^たとあ
 りて。舟^{ふね}く^く回^{まわ}とす^す。此^{こゝ}に^にて^て見^みる^る

田と秀吉との討つ陣也。小牧なる名を屋
 一里と。精治よりあつるや、七里のりて○
 精治よりあの方より、甲に監與あり。そ
 より東の戸日えとのりより監與は。但
 上列の坂をへり監與が少く。そのうすい辰
 むらゆ也。精治のあけりつよりあり
 廣き。跡も。各勢跡と云げも。各勢跡
 けらぐ。跡のゆよ各勢と云村あり。各勢

跡ひらりて。三河河から。と。佐もある。三
 里ぐらり。南に一里す。跡よりゆ。け跡よ
 回富をへりて。各勢跡の。と。し。跡のあ
 よ。一里す。と。つ。あ。り。た。も。木。芳。川
 の。ま。い。す。で。跡。も。○。新。か。納。々。の。納。れ。東
 一里す。ふ。も。ふ。ち。ら。り。所。も。精。治。よ。り。か。納
 への。り。也。そ。と。ま。よ。長。め。年。波。阜。の。勢。と。味
 方。れ。徳。大。お。と。合。戦。の。所。な。り

か納安積郡より金坂一里也

か納の所を十八所行も。今の安及右系
を及岳城也。か納よりある平田は
系が放よるの系か。田畠はきんぎ
むとりのままと植くるのまもす。む
筑せよとの家屋たよ。又りて田乃
こやとす。とよりる古庄(八里波阜)
一里あり。波阜はもとりのあやあはる。波阜

よるいづらふ一里ありのゆつ也。波阜
の所は人家多くしていらふ也。富の國
人多くあはる。波阜は稲粟あり。名
ああり古あかか。波平の立わりい
あどのと。とあるむけありと。と
因情きり河の奇なるに因情のむね
かりぐ。げいあはるよ。いあじふあ
因情のゆれもあ社あり。あ般は歴也。

は地之京系都の清あり。あしよいふ
よくゆる系。すくはし。の系甚し。
改阜の地最佳處也。系都の風景のこ
し。地も小石布。して系都乃地のご
し。改阜の心成とく。いふとく。いふと
し。いふ。中固情の社れ。この心成。客に
松多。改阜八周の改。よ。あ。て。て。ん
付。と。也。昔。每。後。新。興。う。城。也。を。時。で

ハ福業。い。い。い。修。去。公。う。り。あ。し。て。よ。り
改阜。い。い。見。那。也。○修。去。の。城。あ。は
い。い。い。の。わ。い。わ。り。城。乃。大。い。い。あ。向。り。
城。ら。い。い。い。い。い。千。里。交。の。地。も。城。下
に。今。は。滑。の。地。も。い。い。い。い。所。の。外。郭
み。土。も。わ。り。滑。も。修。去。の。所。乃。城。の。り
中。い。わ。り。修。去。の。い。い。い。い。安。小。長。城。一。結
ひ。い。う。天。正。四。年。を。い。の。安。土。の。城。も。修。去。

の系都

の系都

その後佐長の嫡子織田城女佐長の子
中納言秀隆に城を居領し多し波卓
中納言と稱し。其の長女年石目三成
みよとてげ城東山方の佐長おのり
に責を負はる。○波卓乃ある川と名
川と云。川上にも橋あり村ありゆ也
波卓乃あるの川より海へ流るるより
てあがる。波卓の方より下りて
てあがる。波卓の方より下りて

てあがる。波卓の方より下りて
大から波卓の方より下りて
とある。名柄川と云。合後乃十町
川と名柄川の川より下りて
がる。故に合後と云。上のりて
はる。より。下の流合後と云。一里許あり。
とある。中納言と七村と。波卓より合後
へ流る。名柄川と云。川より下りて

川より下りて
川より下りて

難多^{あや}。あいのりて勢をつよはせ。此の難
江戸へも献^{けん}と。孝まをみ年^{ねん}圓系^{えんけい}の事。
八月廿三日波阜の城を攻^せ。河大勢の
城より献^{けん}せしす。いんとして。合後の川
の西まで、勢^{せい}あり。河^かの徳大勢
川とつて、献^{けん}と追^おう。合後
乃^ゆ當^あれ。あ^あい。あ^あま^まの^のら^ら。あ^あ村^{むら}を^を。献^{けん}は
と^ところ^ろは^は。あ^あく^くい^い。あ^あく^くり^りと^と。合後

川の合後^{あご}也。深^{ふか}さ十尋^{じゅうじん}あり。あ^あの^のこ^こ也。
我^{われ}は川を^をつ^つる^る。河^かの^のよ^よあ^あく^く。三^{さん}間^{かん}乃^ゆ
竿^さと^とさ^さす^す。よ^よさ^さす^す。川の^のあ^あぐ^ぐれ^れい^い。さ^さぐ
う^うあり。洲^すの^の股^{また}川^{がわ}乃^ゆ河^か上^{の上}也。○波阜^{はふ}より
合後^{あご}二十^{にじゅう}所^{ところ}あり。あ^あも^もよ^より^りて^て。か^か納^な乃^ゆ
乃^ゆは^は出^で。屋^や々^々。湊^{みなと}の^の町^{まち}あり。○波阜^{はふ}の
あ^あの^の席^{せき}田^たと^とり^りあり。あ^あの^の名^な也。右^{みぎ}の^の名^な也。
又^{また}波阜^{はふ}の^の水^{みづ}三里^{さんり}許^{かり}。川^{がわ}上^{の上}。あ^あの^の名^な也。右^{みぎ}の^の名^な也。

〇あ^あの^の名^な也

六十三

あり名所なり

合後より名所なり一里六町

合後の町名数軒三十字又形なりあり
○いほぬま川はらるるふらふらあり古き
多し。唐由のいつぬま川よりあり。唐由
の形も山り川也。本田と云村の名色あり。
大河よりあり。此里の人いふぬま川と云
る。江よりあり。赤坂(二里八町)

是の町の町名数軒六十許あり○是の町
乃水守里小。高桑材と。此地は此所の
多く出る所也。高桑本所と云。此所は莫
名としてまゝ名も小所あり。只一橋あり。
ひうより毎年此の町江戸へ物とせ。
高桑の町は。杉林乃ありありあり。
大乃よりゆる也。○吾汲いよありあり
み里あり。と云る所也。千載直あり。奇あり。

○本所
○本所

山中にくちやうく及さし（おんれい）明礼のれと（おんれい）お
 おしる所。第三十三番の観音あり。○
 長久村より長久川とて大河とく（いせ）いせ川
 とて（いせ）いせ川也。合後川より（いせ）いせ川なりと
 して（いせ）いせ川源くして川の流（いせ）るなり。飛騨山
 の方（いせ）いせ乃郡と（いせ）いせり出る川也。げま（いせ）ま
 下と依後川とて。依後村の川の源なり。
 依後川乃東に結村とて。大橋より（いせ）いせ川の



股また（また）のりなるこのやよ小社と結の神と
りよ名も是也古方多し。是も古くよりま望
下也。○沈尻村はるふあり

赤坂よりあらか赤井あか（一里十二町

赤坂の山こ虚こをた務た山まよま虚こをた務た堂だうと。
赤坂乃宿いむじくま熱坂乃あか出で籠かごが源九郎
義よ經けいよりまれまるる也。是も古くよりま望
の市本陣いちほんじん置お山やまい。赤坂の南にみなむむひひままく

とあり。赤坂の方かあいいやまとゆり。けけ時じ務む
とと名を改させむあひひとより。今もあららと
とととももいい今いもも 清せい殿でんとと○あまま墓ぼと
ひひりりいい赤あ井い赤あ坂さとと同どうくく宿しゆく深ふか也。今いのの小
里さとちちりり所ところあり。古ふるもも也や古ふる方かたあり。是も古くより
是の地とあり。赤あままのの社やしろいいまま墓ぼのの西
はは乃の水みづのの名な乃のとといいはは海うみ乃の名な乃の所ところ
ありと云。赤あまま八はち幡ばんとといいはは乃の名な乃の所ところとといいはは赤あまま

赤坂の山

赤坂

○書志の滝ハ。吳淞園南香郡多後山
 以中流。續日本紀よんく。り多後
 山乃たり。とおれ。少南の。下
 よひり。多あり。き。多の。也。
 山乃あり。也。○栗原。南。の
 東。也。南。よ。つ。き。少。い。
 一。下。に。栗原村。園。が。栗原の
 也。栗原。我。部。土。佐。也。○多

一の里名。おかり。古。あ。今。い。氏。家
 少。と。栗原。と。園。が。栗原の。也。多。南。に
 多。の。心。と。多。多。と。桃。と。
 一。と。栗原。あり。少。家。と。多。の。也。
 乃。少。也。天。武。帝。も。多。と。は。一。と。
 園。が。栗原。今。例。一。里
 栗原。の。栗原。に。多。と。栗原。竹
 中。氏。乃。栗原。也。多。の。と。栗原。の。中。に。

の方也。園が東に在り。乃て北に筑中納言
秀秋ひであきの侍也。此より北に侍と云れ
し也。此より北に侍と云れ。此より北に侍と云れ
不波河内も居候なりと云。○南に侍と云
も。多波川の水を渡る路あり。南に侍と云
し。多波川の川の同也。北に園が東に在り
わじりしと云。此より南に侍と云。此より南に侍と云
へ。此より南に侍と云。此より南に侍と云。此より南に侍と云

て。園が東の南よりあり。此より南に侍と云。此より南に侍と云
牧田と云。宿。今例より二里も。牧田に侍と云。此より南に侍と云
と。牧田より南に侍と云。牧田の東より南に侍と云。此より南に侍と云
宿也。その南に侍と云。宿也。その南に侍と云。宿也。その南に侍と云。宿也。その南に侍と云
垣の南也。南に侍と云。垣の南也。南に侍と云。垣の南也。南に侍と云。垣の南也。南に侍と云
ま。今例より南に侍と云。今例より南に侍と云。今例より南に侍と云。今例より南に侍と云。今例より南に侍と云
今例より南に侍と云。今例より南に侍と云。今例より南に侍と云。今例より南に侍と云。今例より南に侍と云

軍のお乃東。大垣の城乃款。兼中にて。ひそく大垣が京の西へ返すといはる也。と云。○大垣村は実が京の所が二所なり。一は西也。石波の園乃有。一水也。大垣村のありて。水は川も園の麓川と云。つ。是も石波也。俗よ。名子川と云。○あるまふ。乃あるよ。多。能くあり。さうなと。出。訪。多。石波と云。を江の目。野。ふの。方。越。乃。也。

漢が京。陳。野。野。一。時。時。時。反。返。し。は。ひ。り。な。かり。○園が京と今例の宿れ同よ。一。年。乃。里。あり。源の義。經。の。母。孝。賢。墓。と。乃。の。水。森。あり。水。あり。○伊。吹。山。は。石。波。を。江。乃。境。あり。石。波。也。伊。吹。の。里。は。を。江。也。山。の。西。水。は。あり。是。も。石。波。あり。ひ。り。一。天。武。天。皇。の。兵。と。大。友。の。皇。子。の。兵。と。我。有。も。ける。彼。の。園。也。大。友。は。皇。子。は。終。は。亦。ま。け。

多し。天武天皇を帝位より下す。法皇系
の三白も是也。孝安も又年凶饑を亡がて
天早と治めずすもい地也。古今たふ大
下な亡の^{ぞんごう}し道し地也。又新野十三家の
時。系族乃我より打負て国も去るべり。終
いしと。平家の士^{よすけ}活平と系集が終あひて
生^{うまひ}捕しと國ぐる末たり
今例より柏原へまを里

今例より柏原の岡のむらさちより小里
あり。もも原と近江のうらひ也。車が七
たり。あふよりむをらうく。ゆるあふ
そらふ小^{くさ}溝をひらう。魚がう。園をい
て。寝^ねたをうとす。うらふ。けいよは
雨を祿ののむ。うらうの云

柏原 は列原田郡
その下遊により たがめ碓井へまを里す
柏原の水六里に小若らら。あふりける。

山下に小谷と云所あり。水必る所の宿也。定
又城宿あり。びりし深井宿あり。此段長城也
碓井より番^{ばん}と云き里

碓井の宿いし中も。水よ川あり。この川上
み里田村も。碓井より八所と。鴨乃長
明が方一首あり。いし水とてよあり。又
徐湖のうもれもふも。里田村も。碓井
のあり古^{ふる}来^{らい}くも。城^{しろ}は^はりし也。びりし日^ひす

武^ぶの^の末^{すえ}行^{ゆき}し。あひし村。修^{しゆ}吹^{ふい}山^{さん}とて大^{おほ}蛇^{へび}
を踏^{ふみ}くも。よりあひし。いし中^{ちゆう}に^にも^もと^と勢^{せう}
れりて。なれり。さうありし。が。さういしとあ
ましく。水^{みづ}を^を地^ちま^まぐ^ぐう^うあり。なれど。い
あとのも。即^{すなは}碓^{すい}井^{せい}多^たし。ぬ。是^{こゝ}に^によりて。碓
井^{すいせい}と^とい^いふ。さうの腰^{こし}り^りま^まと^とあ^あり^りあ^あり。日
あ武^ぶの^の末^{すえ}行^{ゆき}の^の末^{すえ}行^{ゆき}天^{てん}皇^{こう}は^はり。市^{いち}子^こ仲^{ちゆう}哀^{あい}天^{てん}皇^{こう}
乃^{すなは}ち^ち又^{また}な^なれど。八^{はつ}幡^{ばん}の^の祀^{まつり}又^{また}あり。碓^{すい}井^{せい}の

碓井

碓井

長湊へ約六里あり。長湊の
もとあり。町も秀吉も住まへり。時
初に定小居あり
番より鳥居かとき里十町

の番より今の番より宿のありあり。
湖のほとりに米原とあり。大津。貝津
塩津。あつより。大津はく。湊なり。大津を
米原まで。舟橋十六里あり。米原より

今の番よりあるあり。け敷よりと番
より。今町の番より。け敷より。立一あり。
米原一里あり。米原より。鳥居あり。とき
里あり。○鷹針。嶺の番より。鳥居か
乃宿のありあり。湖あり。眼あり。とき
好氣也。竹生。橋あり。ときより。ぬめ。おき。か
ゆ。橋あり。まつり。一里あり。め。ぐ。の。い。塔。屏
風をき。さ。ら。ご。と。く。わ。ら。岩也。社あり。僧

の番より

二十五

坊あり。またあり。かゝ。元洲の舟に三の船
あり。竹もつゝいかにあり。も。奥はき。
竹もつゝ。又。早山とて。武志の宿のいぬい
の方。湖の中。に。さ。ゆ。り。ら。あり。これ
又。つ。れ。ご。く。少。地。ま。は。げ。ぐ。り。鷹。計。炭。乃
ト。入。海。あり。さ。る。あ。み。民。家。あり。磯
と。云。そ。より。沼。の。方。も。ゆ。ら。る。と
鳥。居。か。より。さ。ま。ま。一。里。す。

昔はあよ多。笑。明。神。れ。多。居。あり。一。ゆ。人
多。居。あり。と。云。伏。山。乃。古。城。へ。も。居。か。の。酒
に。わり。ま。さ。ね。山。也。石。田。治。船。が。城。あり。也。
岡。が。東。軍。の。聖。日。け。城。を。攻。め。も。老。根
乃。城。い。も。あ。り。も。居。か。より。老。根。へ
ゆ。り。伏。山。乃。古。城。の。と。を。越。ゆ。也。も。居。か
より。老。根。一。里。に。近。し。老。根。ハ。湖。乃
も。居。也。ま。ま。集。め。経。行。と。弁。の。乳。母。が

奇あり。園が東海乃後、沃山の城と治
政の補が於此と。井作を給及よき後い
つし。其の九年、沃山の城不運とて
其根を改く機と築ありあり。是の無給
後、死去の後たり。其井よりも、岳本
乃同七里、山中なり。小移の宿と鳥
岳本と云ふ。其の所にあり。岳本也
と云ふより、岳智川二里

と云ふより多賀一里あり。あふあり。
多賀よるが、大明神乃社あり。俵峠諸
も也。岳智と云ふ所の抄なり。岳也。と云ふ
岳根一も一里あり。と云ふ所の町は布と
多くは。と云ふと、岳智川乃るに。つ
らとり村し。よあり。岳智の岳は
つらとり岳多く。岳と云ふはあり。
と云ふ所の町は、岳智川と云ふ川。大上川

七十七

七十七

とてはむにむとの船なり○しむの
乃大と和田とてはむものしをき
ふしむもちりむしむしむしむは
とてはむの親者もふなり。そもも
作と也。是皆を江の國中みよし
九段と云ふけむにあり

● 志智川より武者へ二百里

志智川の宿れぬよある川を志智川と云

俊頼の寄あり。親者もふしむ志智川と
武者の宿れぬよある川を志智川と
とてはむ。しむは親者もふなり。二十
所乃昭礼親者なり。傍坊丸あり。親者
堂よりよみ伝ふ。本友の城はを代く
安よ。居城を志智城の太ふにむ方は
親者もふのしむしむ。又六町よりしむ
の城はあり。最たるしむあり。その作本

義秀の一族。依々本義復が。此後あり。
記者ちよといひて。まき山也。建初の祿
ハ箕作山の東にあり。○む雷の
森ハ世智川と武者の宿のるふ。記
者ちよといひて。清のよと云ふ乃が。あま
あり。海名のとも也。むる村よ所あり。
けありいよといひて。よのあり。地を
あう。ありて。は。妻の。ご。は。栗の。

くらくるふ。ゆら。と。中。以。木。の。枝。乃。有
り。あり。火。を。た。れ。ば。う。く。り。や。り。里。人。これ
を。過。て。新。とい。は。火。を。よ。く。た。り。と。云。里
人。を。と。ひ。り。れ。栗。の。木。乃。葉。あり。と
り。い。づ。う。き。物。也。地。列。よ。も。入。ま。れ。よ。は
物。あり。昔。は。も。と。よ。え。た。ら。栗。の。木。あり
と云。續。西。陽。雜。俎。了。東。海。よ。文。栗。を
こ。り。り。あ。け。栗。の。事。り。や。と。い。ふ。人。あり。

安土の城跡と記す事この如きあり。近
依と云ふ所の社の安土の如し。近
と云ふ乃成まの方あり。依と云ふ代
の社の社也。延武社名姓。道の必
補生教沙々貴社とあり。安土の依
と云ふ社の如し。依と云ふ所の社
いふと云ふの如きを記す事あり。依
と云ふ所の社也。依と云ふ所の社
も仁徳天皇也。依と云ふ所の社

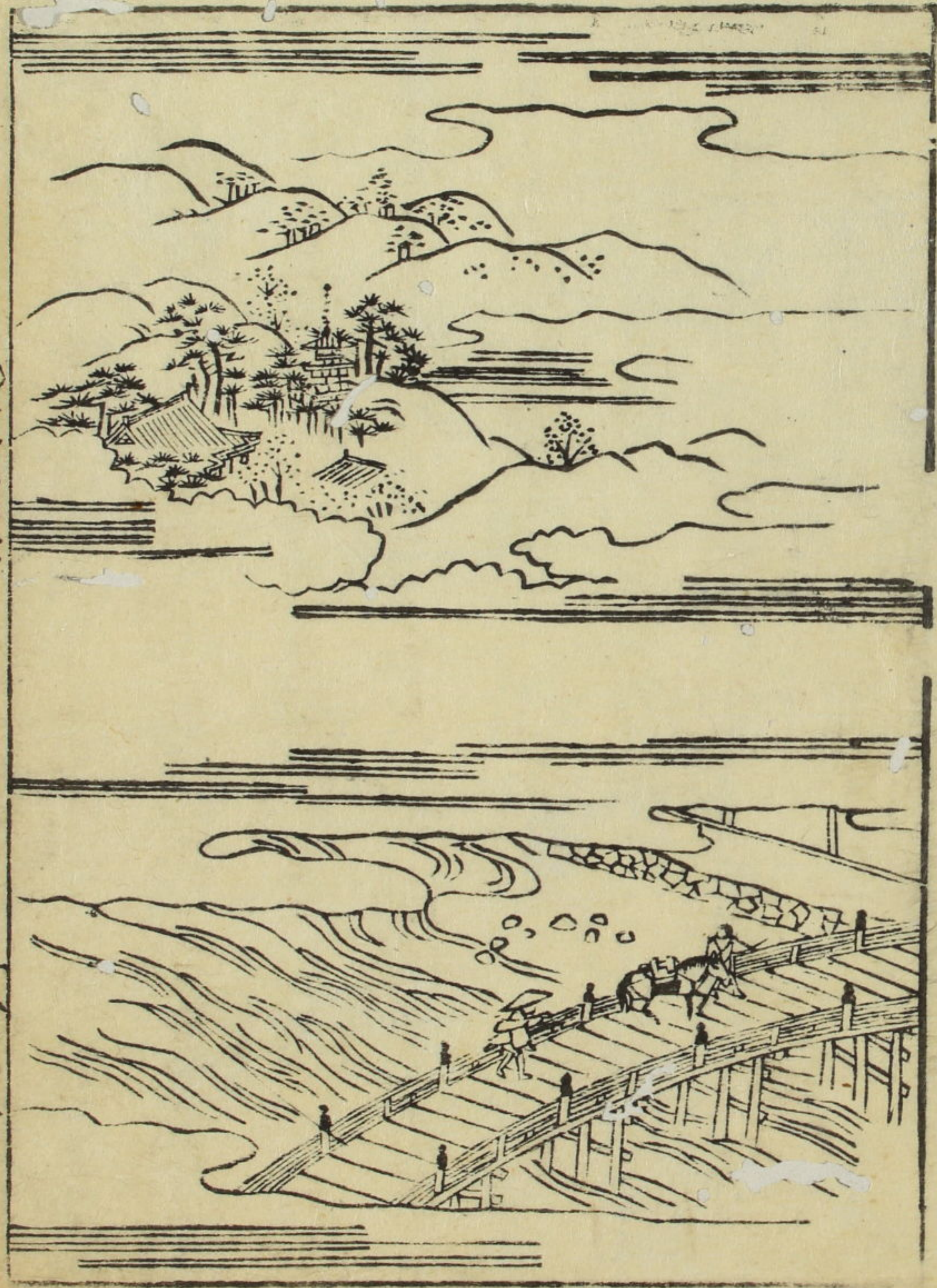
多れども。社社といふが如き。去地乃
社なりとて。依と云ふ所の社ありと
武者より守ふに三里也
後山と云ふ武者と守ふ所の如きあり。近
乃方より守ふ所也。後と云ふ所の如
も。後山といふ所あり。名あり。山下に後
宮あり。人家あり。近と云ふ所の如
と。近と云ふ所の如き。武者より

後まで一里は。後より守山(一)三あり。
武者より八幡山へ中河より。武者と守
山乃同横国より。一里。川より。後より
○野洲八鏡と守山より。後乃家の
面より。け所のあふは。けして。布(の)を
多くし。と。と。川八所のあは。けして。
野洲川。河原と。いふ。あは。○守山。か
る根(ゆ)と。老根より八幡(山)あり。

それより野洲より。海(うみ)あり。そとを
江乃下道と。いふ。平地と。よれた。地(ち)沙地
なり。列樹(りくじゆ)の松あり。新(しん)家(か)津(つ)と。法(ほ)のと
さへ。げ。た。と。ゆ。多(た)り。ま。新(しん)人(じん)も。毎(まい)に
た。と。と。紙(し)子(こ)。多(た)く。新(しん)根(こん)一(いち)里(り)老
根(こん)より八幡(はつ)山(さん)八幡(はつ)山(さん)より守山(しゅ)山(さん)三(さん)里(り)ま
あり。老根(らうこん)と八幡(はつ)山(さん)の。名(な)も。安土(やすど)あり。後(ご)長
公(こう)乃(の)城(じやう)あり。安土(やすど)も。今(いま)も。所(ところ)あり。在(あ)り。

あり。行末この所乃屋敷あり。八幡と新洲のなるふ。其系とありあり。い帳ハ所いりま事。大付程あり。富る商人多く。徳の産物なる多。く来り。美洞ゆんどうはふして。所乃少。八幡あり。秀吉公の。次の居機あり。秀次とを江中納言と称す。安よ居機あり。ゆかりは所

て。敷帳と抄あり。深くうは。板戸へも安がはら。允日本園。うは敷帳。抄あり。安より。より親者。二里あり。東よ。越智川へ二里あり。間よ。乃社あり。その皆中道の。守より。守より。守より。



尾張の里に守りてあるはのらぬあり。
 又はるふこの形ありぬも也。形はるにま
 はと大はれありふも。はるよりはるの
 なる。比敷ふ八五七。めち田れうらなど
 とゆる

尾張より大はれ三里六町

勢田の物乃下れ川を。をいふ中の水。こ
 とぐく湖に入るとその末流也。そよりう

流るるが急流とてさくはゆるそつらまは
乃國神崎川^{くんにさき}十三川^{じゅうさん}お坂の川よ出る境
多下りるらんま里館^{りかん}あり。石ふれたに
佐津^{さつ}の渌^{ろく}あり歩^{あゆ}みもゆるそつら
を下^{くだ}にちとさびとらふあまあまの
み大^{おほ}河^かるられま岩^{いわ}のららうとてゆん藤
け^けふ法^{ほう}さび^{さび}海^{うみ}るとえ。○堂^{どう}若^{わく}に^に移^{うつ}る
るふのる也。四月下旬のけは台より表

ぶくわらさびとしく飛^{とび}て橋^{はし}はわ
みといらり。教^{しよ}司^しの堂^{どう}一^{いつ}ありありまを。
丸くかしまりてさよあがり。そあさまらあ
のよよ流^{なが}るらほとらふ。毎^{まい}朝^{あさ}ののどし
湖^{うみ}目^めと井^いすく川^{がわ}下^{くだ}へらる。う^う流^{なが}るそ
五月上旬のけ堂^{どう}多^たまはらり也。とらふ
○勢^{せい}田^{でん}より大^{おほ}津^つのれ乃^の逢^あまで一^{いつ}里^りま
了^り。大^{おほ}津^つ松^{まつ}を照^ておけとあら。所^{ところ}はま

とほやうはく別なり。勢多と膳所の間
栗はが原也。今井田原。通平が墓あり。本
弟義仲乃墓あり。膳所の民家のうらひを
乃の墓也。持の本二本を志保しに置。れ
ゆれ。溪膳所あり。らまれ。祿食を個
ふ。雨地あり。おりの。溪と云。又膳所と云。
松本の色湖のうらひ。比叡の山坂か。八
王寺。堅田志保。うらひ。一松。三井。さ乃

上の長等ふらむ。とて。ね。系也。大付乃
東北湖の色也。亦おの。後なり

大付より志保(三里)

大付の水陸乃要地なり。水も奥列。おね
より。志保と志保。舟の箱を。船一のき。て
越前。敦賀へ。は。う。か。敦賀より。こ。る。舟
て。志保。ふ。七。里。す。れ。山。路。と。こ。え。て。道
は。乃。見。は。よ。か。一。船。の。色。湖。と。二。十。里。と

るく大付一急く。又東をいぬをいぬ
こよりもし地よむはくぬ。はらこし。國屋
町富家ゆかり。札の辻より水よりバ
水曲あり。三井ちる。親書は敵とく
とそよりゆく。札乃辻八所の坂甚にど
りまき。西也。八所坂の者よ國乃明社
あり。は社に輝丸たりと云。りまきしは
社乃ちより小國の清ありとそあり。但古

人の後よ一國の清あり。西をいぬ
ぼくそく。たれ方に國あり。そそ
ひう。相坂の突あり。西をいぬ。はらこし
いあや。ら山也。國乃小川もはらこし。ん
お隆の寺に。まゆり。か紙あり。つみい
しはゆく。國乃小川の。花は。ち。浪。經。家
の寺に。紅井。よ國の小川の。成。より。音
お乃。ら。より。み。ら。散。り。國。山。と。り。ま。き。相

坂とあり名取也。○大井と追分はる大
井とあり。ふらうとあり。井とあり。の方とあり
れとあり。井とあり。○をいとあり。機乃境に
大井と追分の名。追分はる大井とあり
大井の尾三町にあり。とあり。三ヶ谷
東三ヶ谷の境にあり。○追分の東と
あり。一ヶ所あり。○追分の東と
あり。井の尾とあり。とあり。とあり。

とあり。ゆまばるの境にあり。とあり
の境にあり。はとあり。とあり。とあり
とあり。○とあり。の里にあり。とあり。八郷
十八村あり。とあり。大井とあり。日とあり。とあり
一里あり。とあり。一里あり。とあり。とあり。とあり
とあり。方一里あり。とあり。とあり。とあり。とあり
○大井のあり。とあり。とあり。とあり。とあり。とあり
大井の社あり。とあり。とあり。とあり。とあり。とあり

ありそよりゆく越ゆきい三井ものあり
出る也○山科の内よ山陵村をゆく天
智天皇^{てんち}皇^{すまう}れ山陵^{さんりやう}ある所みけきこの所と
山^{やま}麻^ま野^のと云^い津^つと洛^{らく}の河^か東^{とう}郡^{ぐん}河^かの
宿^{しゆく}もども皆^{みな}け野^のよ山^{やま}連^{れん}よ出^いて津^つ福^{ふく}
しきり○あゝの坂^{さか}乃^のよを日^ひの息^{いき}といふ
たぐげのよそゝあゝの方^{かた}へりる坂^{さか}を
松^{まつ}坂^{さか}と云^い○うづらが押^{おし}くころりともあ昔^{むかし}

乱^{らん}世^{せい}よの室^{むろ}にて山^{やま}賊^{ぞく}人を殺^{ころ}し衣^い袴^{はかま}
と云^いたむい〜と云^いも河^かの白^{しろ}登^{のぼ}りよも一^{ひと}支^し
人^{ひと}の行^ゆきさうり〜と云^いん○松^{まつ}坂^{さか}よ義^ぎ経^{けい}
のけあむぎけあり○栗^栗田^た白^{しろ}あより
東^{とう}山^{さん}へ出^いてわたりたよまを連^{れん}院^{いん}津^つ門^{もん}路^ろ
あり。たのらよよお守^{まも}り家^けあり乃^のよりい
ん〜と云^いんあむ釋^{しやく}きつ黒^{くろ}谷^や吉^{きち}田^た白^{しろ}川^{がわ}
乃^の方^{かた}よゆく乃^のより。栗^栗田^た白^{しろ}あより

○白河橋は川を白川より出る也。たり
知恩院紙園清あり。約道あり。○二葉の
大橋より東へ入らり。け川ハ雲霧川
の下あり。○日の曇れども、料乃内
も方へ行。又西乃方へゆき、山成越く
系ね又系と系へ入る。ありきる音
越くと云。坂あり。是と云。集滅道といふ。
奇れ中、山清深き清あり。下と云。ゆ

○追分より東ゆき、どゆえよゆい。を
勅修され、系屋を造。依、俗、け、西、成
大系、若、といふ。那、ち、り、系、こ、ぐ、か、ど、う
系、可、あり、き、よ、乃、方、小、勅、修、き、清、門、跡
あり。由、の、後、の、も、系、屋、に、水、の、乃、け、り、こ
り、に、云、道、系、系、系、系、の、小、社、あり、と。
是、延、喜、の、帝、の、外、祖、又、母、ち、り、け、ま、
ハ、宇、治、物、緒、よ、ん、こ、り、西、の、坂、と、越、ゆ

ハ後の森乃社の南城をりて依りて
入信

波祖路記の後叙

波祖路ハウ移々^キ行^ツしヨリも道
けんしゆけ^{コソ}く^{ズイ}あ^エれと
あ^ハやとあ^ヤう^ウ次^ニ井川^ノ阿^ノ部^ノ川
か^ノの^ノこ^ノた^ノ流^ルあ^リて^コこ^ノえ^ルこ^ノた^ノ
取^ル乃^クう^チま^ヒれ^ク又^ニ森^ノ乃^ノ新^ノ江^ノを^テ
の^ノこ^ノち^ノら^ノ後^ノ海^ノ北^ノあ^リま^ハり^ウ
と^モい^はれ^ルけ^レよ^リる^コノ^メを^テ修^メ徳

の内四十七里の山中なるゆへ坂多
かれと箱根のこくはうもあな
山中ありけりや人のまをれと
多しよめとあふのりて地
およろしけれいまあやふらあ
るも器もけりいあふと
川のこら林木のこら徳列ま
まうはりて目に目紙ま

かきゆ人すくれとて継来す
なれと道の中りてあふ
けりあふと人馬のらう
竹澳のこら鞍けとあやふ
あやふと只十二月二月
あふとてゆき江戸より
くすと度皆東海道をゆき
ア一のられ人あふむの

しな又とぬくむのこちては
しめてけ道ととちりゆりー
おしひけとよれたる志りぬを
目しに見開せし紙のさう後乃
あしひふとんとてさゆさうに
人よきらひの書志終りゆる我
一人のからまひのこちりぬも
まじる事たりぬさうゆゆか

らんかう絶し後のこち人彼道
乃と成志れしゆれゆらう紙
ねとちひきう人ふとたけま

寶永六年八月

貝原篤信書

京六角通市幸町西八町
書林茂本多在墨門板行

本島海道宿付

宝永四年二月二日

江戸方より一ノ二リ	七十八文	板橋方より一ノ余	廿二文
松方より一ノ二リ	廿九文	磯方より一ノ一リ	廿五文
浦和方より一ノ一丁	廿二文	大宮方より一ノ二リ	六十四文
上尾方より一ノ一リ	廿二文	桶川方より一ノ一丁	廿九文
鴻巣方より一ノ一丁	百廿九文	熊谷方より一ノ一丁	八十八文
深谷方より一ノ一丁	百廿五文	中尾方より一ノ一丁	六十二文
坂本方より一ノ一丁	廿八文	玉村方より一ノ一丁	六十一文
榎野方より一ノ一丁	百廿四文	三浦方より一ノ一丁	六十三文
板鼻方より一ノ一丁	廿五文	安中方より一ノ一丁	七十六文
松方より一ノ一丁	七十一文	坂本方より一ノ一丁	百六文
将井方より一ノ一丁	廿八文	寄居方より一ノ一丁	廿八文
追分方より一ノ一丁	廿五文	小田方より一ノ一丁	廿九文

奥村方より一ノ一丁	百廿四文	塩原方より一ノ一丁	廿七文
八幡方より一ノ一丁	廿八文	ら月方より一ノ一丁	廿九文
芦田方より一ノ一丁	廿五文	長瀨方より一ノ一丁	七十一文
和田方より一ノ一丁	百廿五文	下流方より一ノ一丁	百廿五文
塩尻方より一ノ一丁	廿一丁	津場方より一ノ一丁	廿五文
かみ方より一ノ一丁	七十七文	碓氷川方より一ノ一丁	六十一文
赤坂方より一ノ一丁	百廿三文	碓氷方より一ノ一丁	七十一文
文越方より一ノ一丁	百廿四文	碓氷方より一ノ一丁	百十四文
上松方より一ノ一丁	百廿七文	碓氷方より一ノ一丁	七十二文
神尾方より一ノ一丁	百廿五文	碓氷方より一ノ一丁	七十一文
妻籠方より一ノ一丁	八十四文	碓氷方より一ノ一丁	百十四文
碓氷方より一ノ一丁	百廿四文	碓氷方より一ノ一丁	百十四文
大井方より一ノ一丁	百廿九文	碓氷方より一ノ一丁	百廿九文

細井とんぐけ	三リ	百十四文	池つけり	一リ	二百八文
仲見がせり	二リ	七十七文	志田がうけ	二リ	七百七文
ゆきんがせり	四リ	百廿八文	細井がせり	一リ	百六十二文
郷がせり	一リ	廿九文	田舎がせり	二リ	八百八十一文
赤坂がせり	一リ	百廿二文	新井がせり	一リ	百六十一文
岡のいまり	一リ	百六文	今井がせり	一リ	百六文
柏原がせり	一リ	百廿一文	醒井がせり	一リ	百六文
東橋がせり	一リ	百七文	高井がせり	一リ	百六文
きんがせり	二リ	百九十四文	志野がせり	二リ	百九十四文
武依がせり	三リ	百九文	守がせり	一リ	百六十二文
高橋がせり	一リ	百九文	大井がせり	一リ	百六十二文
高橋御定	三拾六貫目		新井下	十貫目	
人足	二貫目		次	一貫目	

正徳二年御定